

# SANS FRONTIÈRES

## vol.39

水戸葵陵高等学校ホームページ <http://www.kiryu.ac.jp/>

夏休み中も、医歯薬コース生は様々なことにチャレンジしました。

### 看護の出前授業



令和元年7月26日、水戸赤十字病院より佐井川まさ子看護師長をお招きし、看護の出前授業を聴講しました。最初の1時間では看護師の1日をVTRを見ながら「見学」。新任の看護師の苦労や5年目の先輩看護師が日ごろの仕事をしてきばきとこなしながら新任看護師を指導する姿など、非常に忙しい一日を過ごされているのが印象的でした。生徒からも、「多忙な仕事のイメージがある中、それを超える忙しさだ」というコメントがありました。



2時間目は看護師を目指している生徒と、看護師の仕事を経験してみたいという希望生徒が、血圧測定の体験をしました。血圧測定には、自動で測ってくれるような機械ではなく、看護師自らが手動で測るものを使用しました。指先で脈を取るだけでなく、脈を押さえて止めたり、脈が動きだした瞬間を確認したりするなど細やかな作業が多く、看護師の方々が難くこなすことも実際にやってみると難しい感じる生徒も多かったようです。

### 千葉科学大学出張講義



令和元年8月5日、千葉科学大学薬学部より3名の講師の方をお招きして出張模擬授業が行われました。今年度は理科の実験を行う講義が3講座実施されました。それぞれの講座を紹介します。

増澤俊幸先生には「生物の設計図 DNA」というタイトルで講義と実習を行っていただきました。すべての生き物に共通の遺伝情報物質DNAの構造について学び、実際に家にある用具だけを使用して、適当な生物材料からDNAをとりだして、観察してみるという内容でした。



川島裕也先生には「光る水でつくる喜びを体験」というタイトルで実験を行っていただきました。光る水になるルミノールをつくる体験をしました。



野口拓也先生には「電子レンジを用いたカゼ薬の合成」というタイトルで講義をしていただきました。電子レンジ内でp-アミノフェノールを無水酢酸と反応させてアセチル化し、アセトアミノフェン(解熱鎮痛剤)を合成しました。その後、溶媒抽出の原理でアセトアミノフェンを単離し、薄層クロマトグラフィーを用いて同定(カゼ薬が出来たことの確認)を行いました。

実験操作や内容は難しかったと感じる生徒もいたようですが、実験が成功したときの達成感は忘れられない体験となりました。

## 教えて先輩



8月24日、本校医歯薬コースの卒業生の先輩方をお招きし、医歯薬コース恒例の「教えて先輩」が実施されました。医学部医学科、薬学部、保健医療系学部、またその他理系学部に進学した先輩たちから、直々にお話を聞くチャンスです。医歯薬コースの1、2年生は自分の志望に沿った講座を2つ選択し、講演を聞きました。先輩方は、高校生だった頃の体験や学習方法、また、成功体験以外にも失敗したことや後悔したことについてもお話してくださいました。さらに、今回の教えて先輩は実際の現場で活躍されている薬剤師の先輩にも来ていただくなど、充実した講演会となりました。同じ学校、同じコースで3年間学び、見事、自分の志望校に合格した先輩の話は、在学生にとってとても身近なものとして感じられ、生徒自身の学習意欲や進路へのモチベーションは大きく向上したと思います。後輩の質問に、親身に答えてくれた先輩方、ありがとうございました。

## 1日看護体験

今年度も多くの生徒が看護体験に参加しました。以下は参加生徒が書いた感想からの抜粋です。

令和元年8月1日、大久保病院にて1日看護体験に参加しました。大きな病院での体験だったので、様々な施設や設備が整っていることが印象的でした。中でも、地域柄お年寄りの方がよく入院されるために、安心感が得られるよう障子のようなデザインのドアが設置されているなど、配慮・工夫が細かくされているのが驚きでした。入院されている方のケアをサポートする体験をさせていただき、一人一人のケアが異なることももちろんですが、看護師が行う「衛生的手洗い」の手法など、一つ一つの作業が徹底されており、気配りや細やかな心配りが必要なのだと学びました。

## 理学療法 見学会

理学療法士を目指す生徒が、理学療法士が活躍する実際の「医療現場」へ行ってきました。働く現場を見学することで、仕事の内容や患者さんとの関わり方を通して、理学療法士という職業のやりがいや魅力を感じることでできた見学会となりました。以下、生徒の感想です。

一番印象に残ったのは常に患者さんと笑顔で接していたことです。コミュニケーション能力がとても大切だと改めて感じました。(M・T君)

理学療法士になるためには、膨大な知識・技術はもちろん、コミュニケーション能力が必要だと痛感した。(K・S君)

幅広い年齢層とのコミュニケーションができるように聞く力が不可欠。体験して良かった！(S・H君)

今回、彼らが参加した目的は「百聞は一見に如かず」！！

実際の治療現場を見たことがないということで、実際の臨床現場はどういったものなのか？もっと深く知って、進路に役立てたい！と思ったからです。進路実現の大きな一歩を踏み出した充実した見学会になり、今後の彼らに大きく期待したいです。ファイト！！